

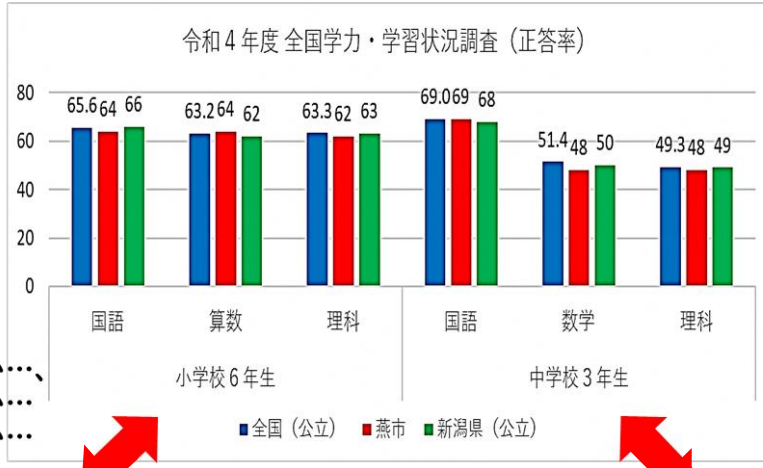


燕市「読解力」育成プロジェクト通信

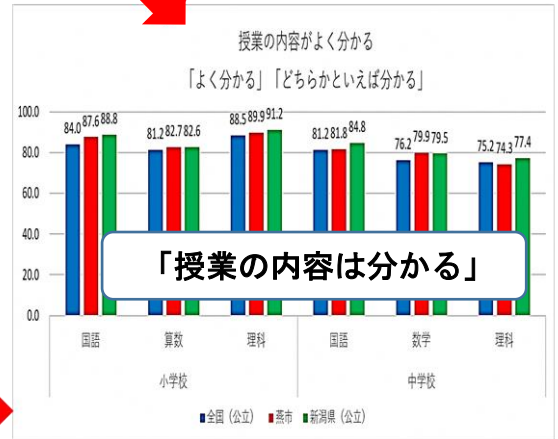
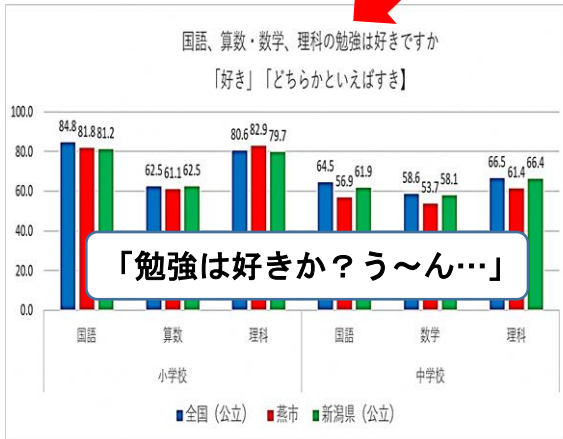
全国学力・学習状況調査から授業改革を考える



一人だとよく分からない…、
テストでは答えられない…
だから、好きになれない…



教えてもらったときは
分かったつもり
だけ…



学力調査の結果・児童生徒質問紙の回答

児童生徒への質問紙での、国語、算数・数学、理科の「授業内容がよく分かりますか」という質問に対して、「よく分かる」、「どちらかといえば分かる」と肯定的な回答の割合はほとんどの教科で全国の割合を上回っています。燕市の児童生徒は先生方の授業を「分かる」と肯定的に捉えていることが分かりました。

しかし、それぞれの教科の勉強が「好き」と答えた児童生徒の割合はほとんどの教科で全国、県の割合を下回りました。

「授業で教えてもらったときは、分かったつもりだけれど…」、「一人で考える場面（家庭学習やテスト）になると、よく分からない…、テストで答えられない。だから、教科の勉強を好きになれない」のではないかと分析しています。

先生方の指導力を生かし、さらにそれぞれの授業を見直し、指導方法や場面を工夫することで、児童生徒が「自ら学ぶ力」、「自己学習力」を育むことができると考えます。

児童生徒が「教科書や資料などの文章、図表を正しく読み取ることができる【INPUT】」、「それを基に自分の考えをもつことができる【THINK】」、「自分の考えを分かりやすく伝えることができる【OUTPUT】」、読解力が「自己学習力」の土台となる力であると考えます。

授業改革！

(先生方の指導力&積み重ねてきた実践) × 読解力育成の視点

児童生徒の
自己学習力を育む

求められている資質・能力（出題より）

この問題は、中学校3年生国語の問題の中で、最も平均正答率の低かった問題です。

その理由として、「行書」、「楷書」、「点画」などの言葉の意味が分からなかったのではないかな？また、選択肢に書かれた説明文を、行書で書かれた文字の筆の運びと比較しながら読むことができなかったのではないかな（イメージ同定）？ということが考えられます。

「行書」、「楷書」、「点画」知ってるかな？

選択肢の「文章」と「筆の運び」が結びつくかな？



- 問 「行書の特徴を踏まえて書くことができていない」具体的な内容として適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- ①の部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができていない。
 - ②の部分は、楷書と同様に点画を直線的に書くことができていない。
 - ③の部分は点画を省略して書くことができていない。
 - ④の部分は、点画を連続して書くことができていない。



燕市33.6% 新潟県34.0% 全国39.4%

12

これは、中学校3年生の数学の問題です。

2種類のコマのうち、より長い時間まわりそうなコマを選ぶという場面です。

2種類のコマを回した実験結果がヒストグラムに示されています。2つのヒストグラムの特徴を比較して、どちらか一方を選び、選んだ理由を説明するという問題です。

どちらのコマを選んでもかまいません。ヒストグラムの特徴を根拠にして、考えを説明することが求められています。

中学校3年生 数学

7 学級でコマ回し大会をします。この大会では、次の図のようなひもを引いて回すコマを使って一人1回コマを回し、最も長い時間コマを回した人を優勝とします。



大地さんと梨月さんは、コマAとコマBのうち、どちらのコマを使うかを検討することにしました。



図1 コマAが回った時間

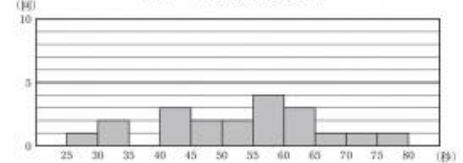


図2 コマBが回った時間

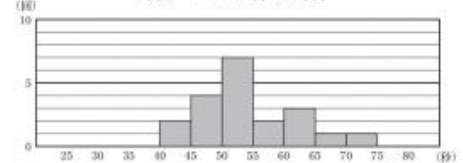


図1、図2のヒストグラムの特徴をもとに、より長い時間回りそうなコマを選ぶとすると、あなたならどちらのコマを選びますか。下のア、イの中からどちらか一方のコマを選びなさい。また、そのコマを選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらのコマを選んで説明してもかまいません。

燕市48.1% 新潟県46.8% 全国44.4%

13

全国学力・学習状況調査では、文章と図表を正しく読み取り、関連付けて考えること、自分の考えを根拠を基にして表現することが求められる問題へと出題傾向が変化してきています。

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力の例

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～
(答申) 令和3年1月【中央教育審議会】

・文章の意味を正確に理解する読解力

・教科等固有の見方・考え方を働かせて

自分の頭で考えて表現する力

・対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し

新しいい解や納得解を生み出す力



児童生徒に求められる資質・能力を育むために、学校の授業は変化して行く必要があります。先生方がこれまで積み重ねてきた実践に、読解力育成の視点でさらに磨きをかけていきましょう！

先生方それぞれの**授業改革**を進めていきましょう！